

項目	事業計画	数量的評価	取組からの成果	取組から見た課題
相談対応	・当事者(家族)、関係機関からの相談に対応する。必要に応じて出張相談会を実施する。	・新規相談1人 ・継続相談2人 ・相談件数延べ(30件) ・学校側との情報共有(2件) ・出張相談会(1回)	・まるっと説明会において出張相談会を実施。相談はなかったが、来場者や関係機関に事業の周知は行えた。	・医療的ケア児等コーディネーターの存在や役割がまだ周知出来ておらず、相談が病院にされ、そこからつながっていないことも多いと想定される。
後方支援	・市内計画相談員への助言や必要に応じて訪問時に同行する。	・計画相談員への同行支援(1件) ・計画相談員への助言(25件) ・市内計画相談員へ医療的ケア児関連情報の提供(6回)	・計画相談員に同行することで、福祉サービス以外の学校との連携や医療的資源に対する助言を行い、ご家族の安心感につながることが出来た。	・同行支援の場合、その後当事者(家族)にとって、計画相談員と医療的ケア児等コーディネーターどちらに相談したらよいかわかりにくいこともあるので、役割を明確化する必要がある。
自立支援協議会への協力	・自立支援協議会専門部会が実施するライフステージ全体を可視化出来るツールの作成に参加、協力する。	・自立支援協議会専門部会(10回)	・医療的ケアコーディネーターについても記載されたライフステージ全体を可視化出来るツール「らいふ&すまいる」が完成した。	・「らいふ&すまいる」や現在作成中の芦屋市版医療的ケア児支援ガイドブック(仮)をどのように効果的に周知が継続的に出来るかを検討する必要がある。
事業周知活動	・近隣病院や芦屋市内訪問看護(リハ)、相談員、保健師に事業の周知を行う。	・近隣病院(16カ所)へ事業のチラシを再送付。 ・関係機関に事業説明 ①芦屋市内訪問看護(リハ)(1回:20人参加) ②市内相談員、こども家庭・保健センター保健師等(1回:35人参加)	・相談員や訪問看護師等に事業を周知することで、相談員からの相談につながったり、実際医療的ケア児が訪問看護(リハ)の利用につながっている。	・職員は毎年変わっていくため、毎年各機関に対して周知を行っていく必要がある。
事業周知冊子づくり	・市内医療的ケア児等コーディネーターや関係機関の意見を参考に芦屋市版医療的ケア児等支援ガイドブック(仮)を作成する。	・たたき台の仮ガイドブックを市内医療的ケア児等コーディネーターから意見聴取(1回)	・事務局でガイドブック案を作成したが、実際に医療的ケア児支援を行っている相談員等より多くの助言をいただくことが出来た。	・想定以上に多くの助言をいただいたため、修正に想定以上の時間が掛かり、完成が令和7年上半期に延長となっている。
ネットワーク会議の運営・参加	・芦屋市内や阪神圏域、兵庫県内における医療的ケア児等コーディネーターの横のつながりづくり、情報共有の場の運営やネットワークへ参画する。	・医療的ケア児等コーディネーター連絡会 ①芦屋市(1回) ②阪神圏域(5回) ③兵庫県(1回)	・芦屋市内の連絡会では、昨年度参加されていなかった方が多く参加され、情報交換が出来たとともに、周知冊子の修正アドバイスをいただいた。 ・阪神圏域の連絡会は、運営を圏域コーディネーターから各自自治体の医療的ケア児等コーディネーターに移行していている。	・芦屋市内の連絡会は、まだコーディネーター全員の参加には至っていないため、より多くの方に参加いただくための運営方法を検討する必要がある。
市内関連会議への参加	・芦屋市や芦屋健康福祉事務所が実施する関連会議へ参画する。	・芦屋市医療的ケア児等支援協議会(1回) ・芦屋市在宅人工呼吸器装着難病患者にかかる災害時対応連絡会(1回)	・各会議へ参加することで、芦屋市内における医療的ケア児の実態やご家族の思いを確認することが出来た。	・医療的ケア児等コーディネーターの周知や地域資源が不足しているため、関係機関や地域に医療的ケア児の周知を行う必要がある。
研修会への参加	・研修会に参加し、医療的ケア児支援に関する知識を習得し、支援に生かすとともに必要に応じて市内関係者に情報を周知する。	・医療的ケア児等コーディネーター研修 ①神戸市(3回) ②兵庫県(1回) ・移行期医療研修(1回)	・日々変化する医療的ケア児に関する知識や他市の取組を学び、必要に応じて市内相談員等にそこで知った情報を周知した。	・他市で参考になる取組があってもまだ具体化するシステムがないため、芦屋市内医療的ケア児等コーディネーター連絡会などで取組方法を検討する。